

nico

[ニコ]

10

OCTOBER 2011

特集 CONTENTS

フッ素は天然の
ミネラル元素です。

自然から教わった
むし歯予防法。

むし歯予防に効くのはなぜ？

なぜフッ化物が必要な？

フッ化物の効果が
アップするコツは？

海外の
フッ化物利用を知りたい！

用法・用量を守って
ご使用ください。

もっと知りたい。
フッ化物Q&A!

子どもにも、おとなにも！

すべての人に
フッ化物によるむし歯予防を！



特集

そこが知りたい！
フッ素の力。

カード付録つき
デンタルアーカイブ
子どもの歯って
どう生える？
永久歯列の完成！

GETHER!

子どもにも おとなにも!



香川県の仁尾小学校の6年生51人は、なんと全員が永久歯のむし歯ゼロ! 週1回フッ化物洗口をして歯を大切にしています。ちなみに、全国の12歳児一人平均むし歯数は約1.5本(「学校保健統計調査2008」より)。

写真提供: 浪越建男先生

多くの疫学調査が示すように、歯を失う原因の第1位はむし歯です。また、歯周病も大きな原因ですが、歯周病のために抜歯されたという症例の多くに、むし歯が副因として関わっていることも少なくないのです。とくに、クラウンやブリッジのある歯の喪失率はきわめて高いものとなっています。

こうした歯の病気の治療費は、国民生活の大きな負担となっています。小さな詰め物を発端とする治療が、再治療を繰り返してクラウンになり、ブリッジになっていく過程で費やされた歯科治療費の総計は、なんと、2008年には2兆5777億円。がん治療に迫る総額なのです。「ひと頃にくらべて日本人の口腔環境はよくなった」と一面評価されながら、現在も歯科の病気が社会に与え続ける問題の大きさをあらためて考えさせられます。

そんななか、保健教育の一環として全国各地の学校や幼稚園・保育園で行われているフッ化物洗口は、子どもたちのむし歯予防にめざましい成果を上げてはじめています。フッ化物の利用が、むし歯という社会問題を解決するための糸口となることを示してくれています。

また、せっかくのフッ化物の力を、子どもだけが享受するのではもったいない。おとなの歯にも、フッ化物は多めに力を発揮するのですから、使わない手はありません。ことに、歯周病のために歯ぐきが退縮し、象牙質がむき出しになったお口は、むし歯のリスクが一段と高まっています。むし歯を予防し、むし歯の進行を抑えて歯を守るフッ化物を、おとなのかたにもぜひ使っていただきたいものです。

お子さんはもちろん、 むし歯のリスクが高まった おとなのお口にもフッ素が効きます!

TO

おとなにも!

むし歯になりやすい
クラウンの境目



むき出しになった象牙質

歯ぐきが下がって歯根の象牙質がむき出しになったお口。むし歯になりやすい状態です。フッ化物でむし歯予防しましょう!

子どもにも!

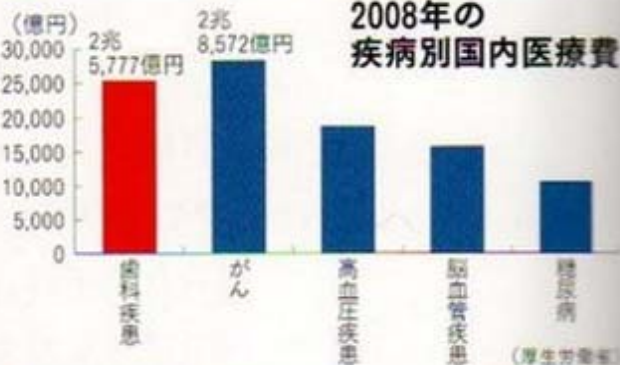


12歳児。毎日フッ化物を使って、むし歯ゼロのきれいなお口です。

典型的な歯の一生

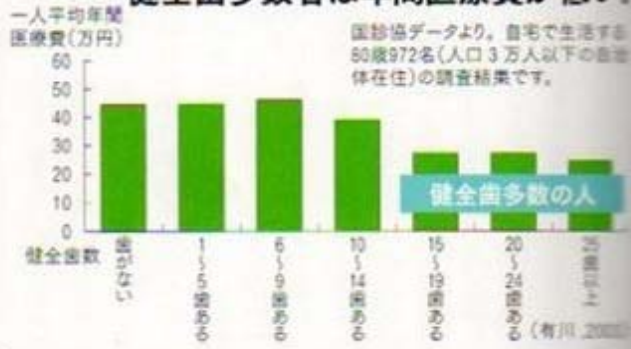


治療の発端は子どものころできた小さなむし歯。時間が経つにつれ再治療が必要になり数十年後にはクラウンに。ついには歯根が折れて抜歯に! まずは子どものころの小さなむし歯を防ぐこと。これが年を取っても歯を使い続けるための重要ポイントなんです!



日本の歯科の医療費は、他の病気の医療費を引き離し、がんの治療費に迫る勢い。歯の病気に悩む人の多さがうかがえます。

健全歯多数者は年間医療費が低い!



自分の歯で噛んで食べられる高齢者ほど、1年間にかかる医療費が低くてお元氣です!